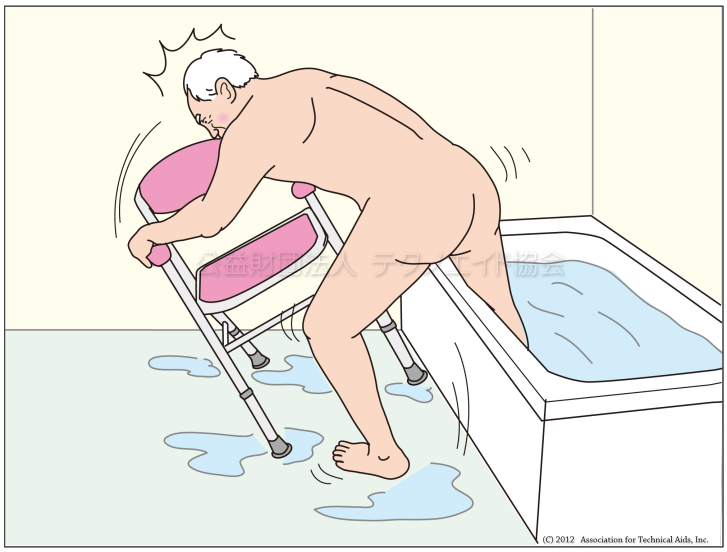
Case：269

入浴用いすにつかまって浴槽をまたぎ、本体ごと転倒しそうになる

場面の説明

浴槽から出る際につかまるものがなかったため、近くにあった入浴用いすにつかまってしまい、本体ごと転倒しそうになった



利用シーン	入浴
主な利用場所	浴室・脱衣所
介護保険の種目	入浴補助用具
分類コード (CCTA95)	093303 (入浴用チェア)
介護テクノロジー	ー
二次元バーコード	

解説

動作の不安定な人は、動作の際に手近なモノに何でも掴まり頼ってしまいがちです。この事例もそのような場面で起きたものですが、普段から入浴用いすにつかまり頼っている動作が見過ごされていたのかもしれません。以前はそれほど不安なくできていた動作も、身体機能の衰えとともに徐々に不安定で危険な動作になり、それに気づかずにいるとある日突然事故という形で表面化することがあります。そうなっては遅いので、日常の動作を見極め、危険を判断することが大切です。

参考要因（要因の例であり、これだけが正解ということではありません）

人：利用者の身体状況の変化を見過ごしていた
環境：他につかまるものがなかった

Copyright 2025 Association for Technical Aids, Inc. All Rights reserved.

福祉用具ヒヤリハット　研修教材（受講者用）

日付：	所属：	氏名：

Case：269

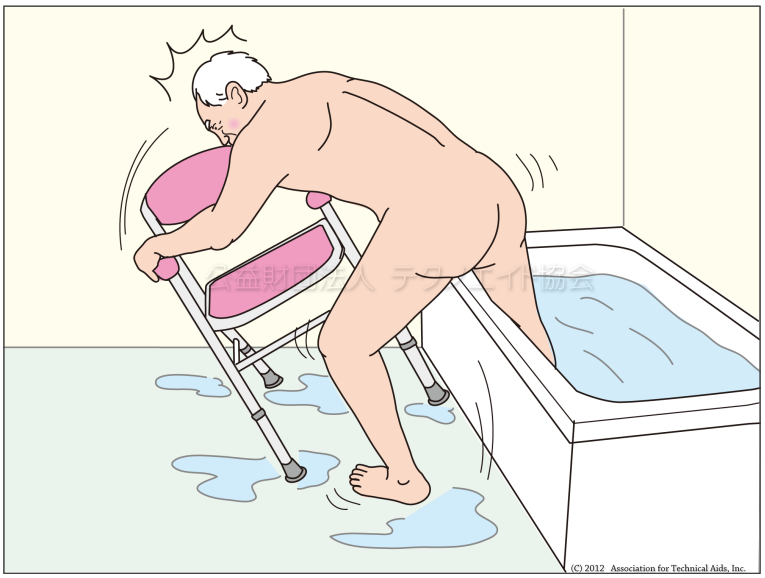
入浴用いすにつかまって浴槽をまたぎ、本体ごと転倒しそうになる

事例詳細

回答前に見ないこと

場面の説明

浴槽から出る際につかまるものがなかったため、近くにあった入浴用いすにつかまってしまい、本体ごと転倒しそうになった



どのような要因が考えられますか？	どのような対策が必要でしょうか？
人（本人・介護者・関係者）の要因	
モノ（福祉用具）の要因	
環境の要因	
管理の要因	

メモ

Copyright 2025 Association for Technical Aids, Inc. All Rights reserved.